平成28年度

回覧

藤枝市男女共同参画地区推進員事業
報　告　書

～男女が共に生き、共に輝くまち藤枝をめざして～

地域において性別による固定的な役割分担や社会慣習を見直し、一人ひとりの個性や能力を活かした住みよい地域社会の実現に向けて、地区推進員の皆さんは様々な啓発活動を行ってきました。平成28年度に実施した活動についてお知らせします。

1．男女共同参画 地区推進員事業

市内の各地区において地区推進員が男女共同参画を啓発する活動を計画して実施します。

平成24年度から始まり、市内全域で男女共同参画の推進を図っています。

2．男女共同参画 地区推進員

(1)　人数　各地区（旧公民館単位）に６人を基本としています。

(2)　職務　◇地域における男女共同参画の普及・啓発活動を行います。
　　◇市が行う男女共同参画の研修会、講演会等へ参加します。

(3)　委嘱　地区からの推薦により市長が委嘱します。

(4)　任期　平成28年度から29年度までの２年間です。

3．主な事業経過

実施時期	事　業　内　容
平成28年４月	委嘱状交付／第１回研修会／講演会・事業説明
５月	第２回研修会／講演会・事務説明・アドバイザーの助言
６月から	各地区における検討・啓発活動をスタート
９月	状況報告会／各地区の経過報告・アドバイザーの助言
平成29年２月	事業報告会／各地区の活動報告・アドバイザーの講評

目次

Ｐ１　男女共同参画地区推進員事業
Ｐ２　市長挨拶
Ｐ３　第１回研修会
Ｐ４　第２回研修会
Ｐ５　状況報告会、事業報告会
Ｐ６　瀬戸谷地区推進員 活動報告
Ｐ７　稲葉地区推進員　〃
Ｐ８　葉梨地区推進員　〃
Ｐ９　広幡地区推進員 活動報告
Ｐ10　西益津地区推進員　〃
Ｐ11　藤枝地区推進員　〃
Ｐ12　青島北地区推進員　〃
Ｐ13　青島南地区推進員　〃
Ｐ14　高洲地区推進員　〃
Ｐ15　大洲地区推進員　〃
Ｐ16　岡部地区推進員　〃

藤枝市男女共同参画課　電話 643 － 3198（直通）

男女共同参画地区推進員事業

「元気共奏（げんききょうそう）・飛躍（ひやく）ふじえだ」
～元気なまち・選ばれるまち・希望輝くまちを創る～

平成11年度に「男女共同参画社会基本法」が施行され、藤枝市では男女が互いの人権を尊重しつつ、個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて様々な施策を展開し、特に、「藤枝市男女共同参画推進条例」にある「地域」、「家庭」、「学校」、「企業」の４つの分野を柱として啓発事業に取り組んでまいりました。

「地域」においては、平成12年度から平成23年度まで、１地区１年をかけて啓発を図る「男女共同参画推進モデル地区事業」を実施してまいりましたが、平成24年度から更に男女共同参画の意識を地域に拡げ根付かせていくため、市内全地区で啓発事業を展開し住民の意識の醸成を図る「男女共同参画地区推進員事業」を展開しております。

一期２年の本事業は三期目に入り、平成28年４月、新たな推進員62名を地区推進員に委嘱し、地域の課題を男女共同参画の視点でとらえて、地区ごとの啓発活動を企画立案し、自治会と連携しながら普及啓発を図っていただきました。こうした事業を通して市全域に男女共同参画の推進の輪が広がり、人や地域がつながり、思い遣りのある、豊かで暮らしやすい地域に発展していくものと思います。

わが国は急速な人口減少による労働力不足や多様化する社会環境の変化に対応するため人材の多様性の確保が必要とされており、特に女性の職業生活における活躍推進は関係法が整備され、益々期待が高まるところです。しかし、あらゆる分野での女性活躍推進のためには男性の意識改革も必要です。男女が互いの人権を尊重し、個性と能力が発揮できる社会の実現は益々その必要性が高まっています。地域の住民が男女共同参画社会の理解を深め認識が広がることは、男女共同参画社会づくりの基礎であると思います。これからも藤枝市は４つの分野での啓発を更に推進してまいります。

最後に、本年度の事業にご尽力をいただきました地区推進員の皆様はもとより、講師の先生、アドバイザーの方々に感謝申し上げるとともに、本事業が男女共同参画社会の実現、「元気なまち・選ばれるまち・希望輝くまち」創りへつながっていくことを期待申し上げ、私の挨拶といたします。

平成29年４月

藤枝市長　北 村 正 平

藤枝市男女共同参画地区推進員事業

第１回研修会　平成28年４月28日㈭

◆◇　３期目の地区推進員事業がスタート！
市長から委嘱状が手渡され、男女共同参画について学びました　◇◆

講　演　会

「男女共同参画“途中の一歩”～『しか』から『でも』へ」

講 師：奥山和弘　氏　　（H28・H29藤枝市男女共同参画推進アドバイザー
元吉原高校校長／市内花倉在住）

「男泣き」という言葉がありますが、これは「男性は滅多に泣くことがない」という枠組みから生まれたものです。しかし、古典を読んでみると、「男泣き」という言葉が始めて出たのは元禄時代で、それ以前は男性も自然な感情の発露としてよく泣いています。また、英語で「男泣き」を表現する言葉は見つからず、「男は泣かない」という概念には、文化・社会や時代による「枠組み」が根付いていることがわかります。

「男女共同参画社会」とは、「男女が自らの意思によって社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保される社会」と要約できます。また「参画」とは、ただ参加するだけではなく、計画や企画の段階から加わることを指します。

その前提として、性別に関係なく多様な活動が選択できる社会、言い換えれば「真の適材適所が果たされている社会」である必要があります。これを阻害するのが、「男は・女はこうあるべき」という枠組みであり、この枠組みを見つめなおさないと、男女共同参画社会は遠のいてしまいます。

この枠組みは、生物学的な違いや、平均値や傾向がイメージ化されたもので、これを「ジェンダー」と名づけて「生物学的な違い」との区別をすることで、その存在が認識されるようになりました。

「男性にしか、女性にしかできない」という職業や役割が、実際どれだけあるでしょうか。現在その職業や役割についているのは、男性（女性）が多い、または適性のある人が多いとしても、よく考えれば女性（男性）でもできる人がいると考えるのが現実的です。**つまりは、「男（女）しかできない」から「女（男）でもできる」という、『しか』から『でも』への発想の転換**が必要ではないでしょうか。

男女共同参画社会は、女性の労働や男性の家事育児を強制する、「性別の解消（中性化）」をめざす、「女性の味方」などと誤解されることがありますが、いずれにも該当せず、性別に関わらない新しい価値を提案する社会です。

また、男女共同参画社会の推進には３つの“**S**”に留意する必要があります。

①**S**tory（ジェンダーと、男女共同参画社会との**つながり**を意識する）
②**S**election（お互いが**選択**し、納得している「性別役割分担」は尊重する）
③**S**ensibility（理屈は理解できても、**感覚・感性**が拒絶してしまうことも多い）

藤枝市男女共同参画地区推進員事業

第２回研修会　平成28年５月25日㈬

◆◇講演を聴いて地区推進員活動の参考にしました◇◆

講　演　会
「男女共同参画の推進～具体例を中心に～」

講 師：奥山　和弘 氏

＜講演の要旨＞

セクシュアルハラスメントは、いじめと同じで、受け手がその言動を不快に感じたならばそれに該当します。相手を対等なパートナーとして認め、一人の独立した「他者」として尊重し、既存のジェンダー意識にとらわれた不当な「一般化」をしていないかなど、意識する必要があります。

前回、「母親が子育てをしないと子供に悪影響があるのではないか」という質問がありましたが、母親以外の人から養育を受けても、子どもの発達にはなんらマイナスの影響を与えません。重要なことは、誰が育てたかよりも、どう関わっていくかであり、子どもに応答的に接することです。

いわゆる「三歳児神話」とは、サラリーマンの増加に伴い専業主婦が一般化し、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が成立する中で、「母親の不在が乳幼児の発達を阻害する」という欧米の研究結果が広まったものですが、平成10年の厚生白書においても、「合理的な根拠は認められない」と書かれています。

現代社会では、子どもを持つことは人生の選択肢の一つになり、それに伴い子どもに対して過剰な思い入れを持つようになりました。少子高齢化・少産少死の時代を迎え、子育てが人生の一部となったことで、特に専業主婦において、育児が終わった後の不安や焦燥を持つ人の割合が高くなっています。

推進委員の啓発活動には、

①資料などを作成することで、自らが学習する
②意識調査、講演会の実施、資料の公開などにより、周囲への啓発を行う
③地元の環境や慣習、組織・制度などを見直す
④各種計画などの中で、男女共同参画を実践する

という４つの段階で進んでいきます。

慣行や慣例には、発信者の意図に関係なく、日常的に繰り返すことで、受信者が無意識のうちに刷り込まれてしまうメッセージがあり、これを「隠れたカリキュラム」といいます。従来の環境や慣例を見直し、改善を進める上では、正当な理由なく特定の性に役割を固定していないか、その役割を異なる性が担うことを想定しているかという視点を持つことが必要です。

～　講　演　会　聴　講　～

研修会の後は、
１年目の活動に向けて
同じ地区の推進員で
話し合いました。

状況報告会　平成28年９月27日㈫

◆◇各地区での活動状況を報告しました。◇◆

年度の中間で活動状況の報告会を行い、地区ごとの取組みについて情報交換をしました。

各地区の皆さんは、啓発活動の進捗状況について発表しました。地区推進員が自分たちで企画した男女共同参画講演会や意識調査、ふれあいまつりでの啓発の計画などが報告されました。

また、アドバイザーからは、①講演依頼の際、講師打合せでねらいが「男女共同参画」であることを伝える②アンケートは項目を絞り、選択式にし、記述式は１～２つにする。回収後、結果を地域にフィードバックする③講演会やイベントで集めた人は点である。これを地域の中で面に広げていくため、集まった人に今後具体的に何をしてもらえるか積極的に働き掛ける④事業の評価を必ずする。自分たちがやった事を把握する⑤活動期間が２年である事を視野に置き、今年の事業を関連付けて来年事業をする⑥地区がどう変わっていくかが最終目標、自治会との連携は不可欠、と具体的な助言がありました。

報告を聞く各地区推進員のみなさん

岡部地区の活動状況報告

アドバイザーの奥山氏からの助言

事業報告会　平成29年２月28日㈫

◆◇１年間の活動報告を行いました。◇◆

１年間の地区推進員事業の締めくくりとして各地区の活動報告を行いました。

各地区の推進員は、今年度の活動の成果や課題などを発表しました。

講演会の開催、防災訓練への参加や意識調査の実施等、自治会をはじめ関係機関の全面協力のお陰で地区推進員事業が実施できました。

また、アドバイザーからは「報告を受け、この１年間で推進員の皆さんが本気で取組まれたことが伝わり、感激した。各地区に強力な推進者が生まれたことが、この事業の一番大きな成果だと感じている。今年の活動で本当の地区の課題が見えたので、２年目が非常に重要となる。本当の課題を踏まえたうえでの来年度の取組みを期待する。」とお話がありました。

青島南地区は推進員全員で発表

高洲地区の発表を聞く推進員

アドバイザー（福井氏、奥山氏）

瀬戸谷地区推進員 活動報告

地域の課題	男女共同参画に対する理解が薄い
スローガン	男女共同参画　まず我が家から
事業タイトル	適材適所で男女共同参画
事業概要	◆せとやまるかじりでの啓発 日時　平成28年11月19日㈯ 会場　藤の瀬会館 ◆ふれあいまつりでの啓発 日時　平成29年２月５日㈰ 会場　藤の瀬会館
事業の目的	「男女共同参画」の理解を深め、女性も男性も協力して明るい家庭、地域を作る

◆せとやまるかじりでの啓発

まるかじりでは、来場者に男女共同参画についての簡単なアンケートをとり、啓発グッズを配布して、男女共同参画をＰＲしました。

雨にもかかわらず、若い方から年配の方まで、アンケートに協力していただきました。

「男女共同参画」という言葉を知っているし、実行している、という方が一番多かったです。

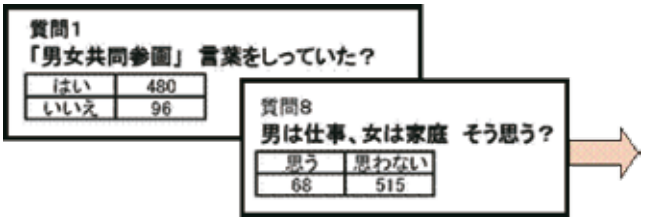
あてはまる箇所にシールを貼ってもらいました

アンケート実施

男女共同参画、実行している？

◆アンケートの実施

11～12月にかけて、瀬戸谷地区全戸を対象に、男女共同参画についてのアンケートを実施しました。結果はふれあいまつりでお知らせしました。



アンケートの集計結果

◆ふれあいまつりで啓発

２月のふれあいまつりでは、地区のアンケートの集計結果を掲示しました。

また、啓発グッズを配り、男女共同参画をＰＲしました。

稲葉地区推進員 活動報告

地域の課題	男女共同の役割の固定化、男女共同参画の意味や活動が地域に理解されずにいる
スローガン	地域に根ざそう男女共同参画意識
事業タイトル	地域に広げる男女共同参画意識
事業概要	◆講演会の開催 日時　平成28年８月６日㈯　午後７時～８時30分 演題　「男女共同参画とは何か～性別を超えて適材適所へ～」 講師　奥山和弘氏 ◆ふれあいまつりへの参加 日時　平成28年11月13日㈰　午前９時～午後２時 アンケートの実施 ◆推進だより第１号、第２号の発行
事業の目的	男女共同についての理解を深め、お互いを尊重し、性別に関係なく協力して明るい地域を目指す

◆講演会の開催

８月６日㈯に稲葉地区男女共同参画推進員主催の「ふれあい講演会」を開催しました。

演題は「男女共同参画とは何か～性別を超えて適材適所へ～」で、講師は男女共同参画推進アドバイザーの奥山和弘氏にお願いしました。難しい内容を解りやすく講演していただき、講演会後のアンケートでは、96%（51人中49人）の方が理解を示しました。

アンケートの自由意見には、「老若男女、得意な事を生かせればいいと思う。」「誰であれ“できる事”をサポートし合う事が当然である、という風潮がもっと普通で自然になる事を願います。」「消防団や町内会長への女性の参画、保健委員への男性の参画が今後あるかも」等の感想が寄せられました。

奥山氏による講演

ふれあい講演会の参加者

◆ふれあいまつりへの参加

11月13日㈰に開催されたふれあいまつりで、男女共同参画に対する意識調査として、アンケートを実施し、来場者300人から回答をいただきました。「男女共同参画を知っている・聞いたことがある」方は248人、82.6%という結果になりました。

◆推進だよりの発行

推進員活動をPRするため「推進だより」を９月と２月に発行しました。第１号はふれあい講演会、第２号は男女共同参画アンケートの結果を題材にしました。

推進だより第２号（２月発行）

葉梨地区推進員 活動報告

地域の課題	葉梨地区では男女共同参画の意識がまだまだ浸透していない
スローガン	男女共同参画を学ぼう・考えよう・広めよう
事業タイトル	男女共同参画の理解深耕・啓発・普及
事業概要	◆男女共同参画講演会の開催 日時　平成28年９月８日㈭　午後７時～８時30分 会場　葉梨公民館 演題　男女共同参画ってなあに？～性別を超えた適材適所～ 講師　奥山和弘氏 ◆ふれあいまつりでの啓発 日時　平成28年11月19日㈯～20日㈰ 内容　漫画を基にした夫婦会話の推理回答 ◆葉梨地区男女共同参画推進だよりの発行　平成29年１月
事業の目的	男女共同参画の意識を高めると共に、理解してもらうための事業

◆男女共同参画講演会の開催

葉梨地区では、男女共同参画推進アドバイザーの奥山和弘氏による､「男女共同参画とは何か」を考える講演会を開催し、会場の葉梨公民館には70人を超える多くの方にお越しいただきました。

講演では漫画を用いたわかりやすい説明で、男女共同参画のあり方を考える良い機会となりました。

漫画で考える男女共同参画

講演会は70人超の来場者

◆ふれあいまつりでの啓発

ふれあいまつりに参加して、講演会時のアンケートの集計結果の展示と､「家事にまつわる漫画」を貼りだし、来場者に漫画の中の夫婦の会話を推理してもらいました。

中学生から高齢者までの100人を超える方に回答いただき、日常生活における男女共同参画について、考えてもらうことができました。

ふれあいまつりの様子

◆「葉梨地区男女共同参画推進員だより」の発行

本年度の事業結果の概要を掲載した、葉梨地区男女共同参画推進員だよりを平成29年１月に発行し、町内会の各組単位で回覧しました。

来年度も、葉梨地区推進員は「安心・安全で明るい社会」を目ざしますので、引き続き皆さま方のご協力をよろしくお願いします。

葉梨地区男女共同参画推進員だより

広幡地区推進員 活動報告

地域の課題	地域防災活動において、男女共同参画がなされているか？ 防災活動において、男女の役割が固定化されていないか？
スローガン	全員参加による男女共同参画の輪を広げよう
事業タイトル	男女共同参画できめ細かい防災活動の推進
事業概要	◆各町内会の防災会議への参加 ◆各町内会の防災訓練への参加　平成28年8月28日(日) ◆ふれあいまつりへの参加　平成28年11月13日(日) ◆ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）研修会の開催 平成28年12月18日(日) ◆男女共同参画だよりの発行　平成29年2月
事業の目的	男女問わず防災に対する意識の向上及び地域防災活動への積極的な参加

◆各町内防災会議への参加

自治会を通して、各町内会自主防災会の防災会議へ男女共同参画地区推進員の参加を要請しました。要請を受けた推進員が防災会議に参加し、防災訓練の内容を男女共同参画の視点で見直すよう提案しました。

◆“男女共同参画”の防災訓練の検証

防災活動において、男女の役割が固定化していないかを検証しました。各推進員が“自主防災訓練評価表“を作成し、自治会に提出しました。

◆ふれあいまつりでの啓発

ふれあいまつりにおいて、“男女共同参画”による防災活動の意識調査を実施し、来場者200人から回答をいただきました。回答者には防災グッズ（トイレットペーパー）を進呈しました。

今後アンケートの集計と分析を行い、結果を次のステップに活かしていきます。

◆ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の開催

広幡交流センターにおいて、自治会との共催でＨＵＧの研修会を開催し、約50人に参加いただきました。会場には、防災活動の意識調査の結果を集計表とグラフに表し、掲示しました。

ＨＵＧは、男女を問わず避難所運営に参画できるため、非常に参考になりました。

防災訓練：女性もテント設営

防災訓練：男性も炊き出し

ふれあいまつりで啓発

ＨＵＧ研修会のようす

西益津地区推進員 活動報告

地域の課題	男女共同参画って、何なの？ 男女共同参画をどうしたら地域へ浸透させていけるか、また、男女共同参画の意義、理解度が薄いのでどう高めていったらよいか？
スローガン	男女で思いやり、共同で住みやすく、参画で心豊かに
事業タイトル	男女共同参画の認識・普及・啓発の推進
事業概要	男女共同参画の理解と啓発活動 ◆男女共同参画講演会の実施 日時　平成28年10月4日㈫　午後７時～８時30分 演題　男女共同参画とは何か？～イメージを超えて適材適所へ～ 講師　奥山和弘氏　藤枝市男女共同参画地区推進アドバイザー ◆西益津地区の各行事（８回）に参加、活動への理解と啓発 ふれあいあおいまつり・スポーツフェスタ・カローリング大会等 ◆「地区推進だより」の発行　平成29年３月
事業の目的	男女共同参画の理解と啓発活動

◆男女共同参画講演会の開催

10月4日㈫に、藤枝市男女共同参画地区推進アドバイザーの奥山和弘氏による講演会を開催しました。推進員による講演会へ向けての打合せには、講師の奥山先生にもご参加いただきました。

自治会会議で町内会長に呼びかけをお願いしたところ、70人近くの参加者がありました。

講演会では、奥山先生が男女共同参画についてわかりやすい言葉で語っていただきました。参加者の皆さんも熱心に耳を傾けてくださいました。

講演会に向けての打合せ

奥山先生の講演会

◆ふれあいあおいまつりでの啓発

ふれあいあおいまつりに参加して、男女共同参画の啓発を行いました。約4,000人の来場者に、推進員の活動とアンケートの調査結果報告を展示しＰＲするとともに、多くの方々と交流することができ、地区推進員の活動を知っていただくことができました。

あおいまつりでの展示

◆地区行事での啓発

小学校の亀城祭において、竹とんぼ作りのお手伝い、中学校では音楽発表会の受付においてＰＲ活動、地区行事ではスポーツフェスタに地区推進員ベストを着用して啓発。地区推進員の存在が、一目瞭然で目にとまり、役割をＰＲできました。

スポーツフェスタでＰＲ

藤枝地区推進員 活動報告

地域の課題	もっとみんなで防災を考えよう
スローガン	もし藤枝地区に東海地震や災害がやってきたらどうする？
事業タイトル	避難所の運営の仕方
事業概要	◆講演及びワークショップ避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）ハグ 日時　平成28年12月３日㈯　午後１時30分～３時30分 会場　藤枝地区交流センター 講師　男女共同参画センター交流会議代表　大國田鶴子氏他２名
事業の目的	男女共同参画を理解してもらい、防災や避難所運営に女性の声を届けたい

◆講演

講師にお招きしたＮＰＯ法人静岡県男女共同参画センター交流会議代表の大國氏からは冒頭、「男女共同参画社会」についてわかりやすくお話しいただきました。

その後、避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）のルールや注意事項、進め方について説明がありました。

「あざれあ」で大國氏と打合せ

◆避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）

藤枝地区自治会の協力で参加者63人が集まり、９グループを編成しました。ゲームの設定は、すべて仮想で、12月３日の午後４時、天候は小雨、震度８、避難所は近くの小学校、使用できる場所は体育館、校庭、１年１組・２組、図工室のみ。

ＨＵＧとは避難者の年齢や、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するかを体験するゲームです。

カードに書かれた出来事には、女性特有の事情も入っていて、男性目線ではわからない課題の対応に、男女がともに参画して避難所を運営する必要性を強く感じました。参加者の多くはＨＵＧの体験は初めてであり、大変実りのある研修でした。

大國氏による講演

ＨＵＧの様子①

◆アンケートの実施

参加者にアンケートを実施し、前向きな意見をたくさんいただきました。

～以下、アンケートから抜粋～

○ゲームを使って避難所の運営を学んだので、楽しく取り組むことができた。

○家に帰ったら、仮設トイレを準備しようと思う。

ＨＵＧの様子②

青島北地区推進員 活動報告

地域の課題	男女共同参画への意識・関心・理解が薄い
スローガン	男女共同参画ってどんなこと？
事業タイトル	地区に広めよう男女共同参画
事業概要	◆ふれあいまつりでの広報活動 日時　平成28年11月13日㈰ 会場　青島北地区交流センター 内容　・H24～H27青島北地区男女共同参画推進員活動を展示 ・男女共同参画の意識調査のためアンケート実施 ・啓発グッズの配布 ◆意識調査の結果のまとめ、検討
事業の目的	男女共同参画を意識してもらう一歩にする

◆ふれあいまつりでの広報活動

この地区における男女共同参画の認知度を知るため、意識調査のアンケートを実施し、回答にご協力頂いた方に啓発グッズを配布して、男女共同参画をPRしました。

同時に、推進員の存在と活動をふれあいまつりの来場者に知っていただく機会とするため、この地区の平成24年度から平成27年度の活動報告書をパネルにして展示しました。

ふれあいまつりを通して、地区の方々に積極的に声をかけ、多くの方々と交流できたことは大変有意義でした。

ふれあいまつりでアンケート実施

ふれあいまつりでの啓発活動

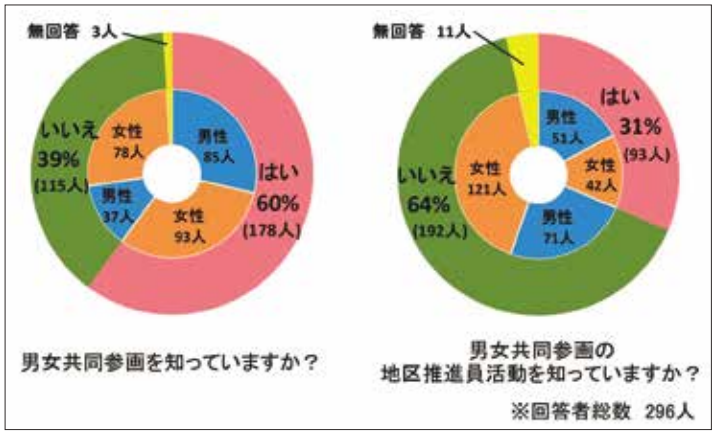
◆アンケート調査の結果

ふれあいまつりに来場した10代から80代までの296人の回答を得ることができました。

調査の結果、「男女共同参画」を知っている人は178人、知らない・無回答の人は118人であり、認知度は約60％でした。

また、「男女共同参画の地区推進員活動」を知っている人は93人、知らない・無回答の人は203人と認知度は約30％であり、まだまだ低いことがわかりました。

今回の調査で、男女共同参画への意見をたくさんいただきましたので、今後に活かして行きたいと思います。



青島南地区推進員 活動報告

地域の課題	①高齢化の進む青島地区での自主防災・避難生活 ②防災活動での男女の役割の固定化の見直し
スローガン	男女共同参画の視点に立って東海地震に備えよう
事業タイトル	男女共同参画の視点からの自主防災・避難生活
事業概要	◆講演会の開催 日時　平成28年７月22日㈮　午後７時～８時30分 会場　青島南公民館 演題　【熊本地震に学ぶ～男女共同参画の視点に立って～】 講師　青島南地区推進員　鈴木瑞恵 ◆南風まつりへの参加 日時　平成28年10月29日㈯　午前10時～午後４時 平成28年10月30日㈰　午前10時～午後３時 会場　青島南公民館
事業の目的	・男女で支え合って避難生活を送るために大切なことは何か ・防災備蓄品の確認

◆講演会開催

７月22日㈮　青島南公民館にて、熊本出身の地区推進員である鈴木瑞恵さんが、現地での避難所体験をもとに【熊本地震に学ぶ～男女共同参画の視点に立って～】と題して講演会を行いました。

講演会には約60名の方が参加してくださいました。

内容は男女共同参画とは何かを説明し、青島南地区推進員の紹介、熊本地震発生後の現状や防災グッズの確認、避難所での男女の役割について話をしました。

参加者のみなさんは熱心に聞いてくださり、アンケートには「大変参考になった」「男女共同参画の大切さがわかった」との感想をいただきました。

講演会「熊本地震に学ぶ」

青島南地区推進員紹介

◆南風まつりへの参加

10月29日㈯・30日㈰の２日間、青島南公民館の南風まつりに参加しました。

７月に開催した講演会の内容をパネル展にし、多くの方に見ていただきました。

啓発グッズとして来場者に配布した【軍手・ロープ・笛】３点セットはとても好評でした。

２日間の活動を通して多くの来場者に男女共同参画の大切さをＰＲすることができました。

来場者に配布した啓発グッズ

南風まつりパネル展示準備

南風まつりの様子

青島南推進員のメンバー

高洲地区推進員 活動報告

地域の課題	男女共同参画の意識向上
スローガン	男女性別にかかわらず、多様な場面で活躍できる人づくり
事業タイトル	男女共同参画の意識向上普及と啓発
事業概要	◆男女共同参画講演会開催及びアンケート実施 日時　平成28年10月22日㈯　午前10時～11時30分 会場　高洲地区交流センター 講師　奥山和弘氏 演題　「男女共同参画とは何か」～性別を超えた適材適所～ ◆各自治会を通じアンケート結果の報告 アンケートを集計とりまとめて結果を町内に回覧
事業の目的	地域住民へ浸透

◆男女共同参画講演会の開催

高洲地区では、男女共同参画推進アドバイザーの奥山和弘氏を講師にお願いし、「男女共同参画とは何か」を考える講演会を実施しました。

会場には124名を超える多くの人にご来場いただき盛大に実施できました。

講演会　講師：奥山氏

来場者意見発表

講演会来場者

来場者にアンケートを依頼

◆アンケートの調査

男女共同参画講演会にきていただいたみなさまに、“家庭内の役割分担を主に誰が担当しているか”を調査するためアンケートを実施しました。

回答いただいた方は合計117名でした。

◆アンケートの調査の結果報告

アンケートの集計と分析の結果の報告は、チラシを発行し、各町内会を通じて回覧を実施しました。

広報活動をこまめにやることで、ひとりでも多くの人が「男女共同参画」について関心をもってもらうことが必要だと痛感しました。

大洲地区推進員 活動報告

地域の課題	男女、世代を超えて行う在宅介護はどうあるべきか
スローガン	男女共同参画の視点から在宅介護を考えてみよう
事業タイトル	「認知症サポーター養成講座」を通して男女が共に行う在宅介護の輪を広げよう
事業概要	◆認知症サポーター養成講座の開催 日時　平成28年９月13日㈫　午後７時～８時30分 会場　大洲公民館 講師　キャラバンメイト 演題　「男女共同参画の視点から介護者の話を聞いてみよう」 ◆アンケートの実施
事業の目的	少子高齢化の中で、在宅介護力の向上を推進する

◆自治会長との事前打合せ

自治会長の皆さまに、本年度の男女共同参画地区推進員の活動計画の説明と協力依頼をしました。

自治会からは、男女共同参画推進員は自治会の構成メンバーであり、推進員の活動については全面的に協力する、との力強いお言葉をいただきました。

キャラバンメイトのメンバーと打合せ

◆キャラバンメイトとの事前打ち合わせ

認知症サポーター養成講座開催に先立ち、藤枝市地域包括ケア推進課及びキャラバンメイトの皆さまと講座内容の打ち合わせを行いました。

講演会で事業説明する自治会長

◆認知症サポーター養成講座の開催

９月13日㈫、「認知症サポーター養成講座」を開催し、50名の方に参加いただきました。講座内容は、男女が共に行う在宅介護の輪を広げる目的で、キャラバンメイトが行い、まずは認知症の基礎知識や患者との接し方、また、現在認知症介護を行っている男性の体験談などが紹介されました。

参加者からは「認知症は誰でもかかる可能性があり、他人事ではない。介護の大変さが伝わり、とても参考になった。」との感想が寄せられ、推進員一同、講座を開催して良かったと嬉しく思いました。

参加してくれた地域のみなさん

◆アンケート実施と公民館だよりへの掲載

参加者にアンケートを実施し、「男女共同参画を知らない」14.5％、「推進員を知らない」27％でした。結果は次年度の啓発活動に反映していきます。

講座の様子は大洲公民館だよりに掲載されました。

公民館だよりに掲載されました

岡部地区推進員 活動報告

地域の課題	地域の防災活動に女性の能力活用が不十分 ベッドタウンで昼間の男性人口が少ない
スローガン	男女共同参画の視点での防災活動に参画しよう
事業タイトル	防災活動を通じて男女共同参画の意識向上を図る
事業概要	◆自治会対象に男女共同参画のアンケート実施 ◆防災訓練に参加　平成28年８月28日㈰ ◆ふれあいまつり参加 日時　平成28年11月12日㈯、13日㈰ 会場　岡部公民館 ◆自己啓発活動（あざれあ講演会、災害ＶＣ（ボランティアセンター）運営訓練）
事業の目的	女性視点の防災活動啓発により、男女共同参画の意識向上を図る

◆自治会対象にアンケート実施

今年度の岡部地区推進員の啓発活動のテーマは、「防災活動を通じて男女共同参画の意識向上を図る」であるため、まずは岡部町の現状を把握するために岡部町内の女性防災指導員の実態調査を行いました。

次に、自治会に協力いただき「防災における男女共同参画についてのアンケート」を実施し、結果を分析報告書にまとめました。大規模災害時に備えて、男女共同参画の視点を防災に生かすために重要と思うことの設問に、近所づきあいや物資の備蓄、自主防災組織の役員・リーダーを男女両方が担う、が挙げられました。結果は自治会にフィードバックし、男女共同参画による地域づくりに活用いただきます。

◆防災訓練に参加し啓発活動

岡部第４自治会の防災訓練実施にあたり、「男女共同参画の視点での防災」についての講演を提案、岡部中学校体育館で「女性視点での避難所運営」をテーマに講演会を開催しました。

また、会場で男女共同参画の掲示物を展示し、啓発を行いました。

推進員が男女共同参画を啓発

講演会「女性視点の避難所運営」

◆ふれあいまつりに参加し啓発活動

来場者を対象に男女共同参画アンケートを実施しました。230名から回答をいただきました。

自治会アンケートの結果も展示し啓発しました。

ふれあいまつりでアンケート実施